

北朝鮮の牡丹峰楽団、最高級「日本製楽器」で演奏する特権を享受(1)

2014年05月27日16時52分
[© 中央日報/中央日報日本語版]

コメント 1



f シェア

Bl

1

m チェック

平壤(ピョンヤン)ではこの頃、牡丹峰(モランボン)楽団が一番成功している。歌唱力に美貌まで備えたスター級歌手の公演が爆発的な人気を得ている。大型スクリーンにレーザー照明までと華やかなステージは、以前は平壤で見かけることも難しかった。「平壤版ガールズグループ」と呼ばれる彼女たちはステージから降りてきて住民らに握手を求め、写真を撮る姿も見せる。“お高い”少女時代とは違って親しみやすいCrayon Pop(クレヨンポップ)に近いと言えるだろうか。昨日の朝、労働新聞が牡丹峰楽団を「見て、また会いたい魅力的な公演…目鼻立ちのはっきりした顔のおしゃれな楽団」と絶賛していた。今では金正日(キム・ジョンイル)時代に全盛期を享受した銀河水(ウナス)管弦楽団を追いやってしまったようだ。創立2年での急浮上は2012年7月の創立公演時からすでに予告されていた。李雪主(リ・ソルジュ)が北朝鮮のファーストレディとしてデビューをする際に牡丹峰楽団も初めてお目見えしたからだ。

朝鮮中央テレビが放映した牡丹峰楽団の公演映像を細かく見てみた。特異なレパートリーが目を引く。革命歌謡として構成された公演は、中・後半部の「世界名曲集」という部分から雰囲気がからりと変わる。モーツァルトの交響曲集を始め『歌劇場の幽霊』という北朝鮮式タイトルをつけた『オペラ座の怪人(The Phantom of the Opera)』の主題曲の旋律が鳴り響くと『オー・ソレ・ミオ』、『白鳥の湖』、ポップス音楽などが続く。

楽器も特別だ。日本のブランドであるローランド(Roland)のデジタルピアノやドラム、コルグ(KORG)のシンセサイザー、ヤマハ(YAMAHA)のピアノなどが使われている。「抗日精神」が政権の土台にある北朝鮮に、どうして日本ブランドなのか。平壤音大出身の脱北天才ピアニストであるキム・チョルウン氏に尋ねた。「金正日の時から最高指導者が直接関わる楽団には日本製など世界レベルの楽器が支給されていた」という回答だ。該当の楽団員には「タブー視される日本ブランドも思う存分演奏できる」という特権が与えられるというものだ。この楽器が古くなれば青年芸術団など一般楽団に渡るが、北朝鮮ではこれさえも非常にありがたいという。

牡丹峰楽団の中ではヒョン・ソンウォル団長がまず目につく。銀河水管弦楽団の歌手時代に『駿馬娘』という歌で有名な彼女は、一時は金正恩(キム・ジョンウン)の恋人だという説が飛び交っていた。昨秋、楽団に関連した醜聞説で粛清されたという一部マスコミの報道が出たが、今月中旬に平壤で開かれた「芸術家大会」に団長の資格で演説して誤報だと判明した。情報当局者は「銀河水管弦楽団の団員が昨年7月以降、団員間のセックススキャンダル問題で処刑されたのは事実だが、牡丹峰楽団や団長ヒョン・ソンウォルまで広がったものではないそうだ」と打ち明けた。銀河水楽団は事実上、解体状態だという。

北朝鮮の牡丹峰楽団、最高級「日本製楽器」で演奏する特権を享受(2)

2014年05月27日16時52分

【©中央日報/中央日報日本語版】

コメント 0



B! 0



おすすめ 2

団員の中ではラ・ユミとリュ・ジンアや双壁をなしている。西欧型の顔に美しい歌声のラ・ユミは、17日に「勲功女優」の称号まで受けた。同じ勲功女優のリュ・ジナは表情の演技が圧巻だ。ヴァイオリンが上手なソンウ・ヒャンヒは演奏家だが東洋的な容貌で人気が高い。彼女たちは流行をリードする。洗練された短髪のヘアスタイルは、若い女性層に人気を呼んでいるという。ラ・ユミやイ・ミョンヒ、パク・ミギョンらがつけて出てきた腕輪型のアクセサリも大流行している。輝くようなエナメルトーンのハイヒールや短いスカートなども同じだ。「牡丹峰が身につければみなファッションになる」という話が出るほどだという。

牡丹峰楽団の歌手の多くは平壤の金星(クムソン)学院出身だという。早くから北朝鮮式の唱法を学び、舞台にもデビューした。李雪主も金星学院を出て中国に留学(声学専攻)した。演奏者はほとんどが平壤音大出身者で占められているという。クラシック不毛の地である北朝鮮だが、特権層の子供や英才対象教育によって脈をつないでいるようだ。

牡丹峰楽団の公演には「音楽政治」と呼ばれる金正恩の統治コードが反映されている。「元帥様(金正恩を指す)の音楽政治の先頭に立って奉じていく一番近衛兵」(労働新聞26日付)という表現にも含まれている。「歌爆弾」という表現も登場する。公演を終わらせた団員が舞台の下の金正恩のところに走って行って歓呼する場面を演出して「恩情と配慮」を浮き彫りにする。いわゆる「親率(金正恩が直接関わるという意味)楽団」を通した宣伝扇動術だ。

北朝鮮芸術楽団の興亡史を探ってみれば、結局彼らは体制の結束と宣伝・扇動のための従属物という気がする。楽団の有効期間は、最高指導者の愛情が冷めるまでだからだ。金正恩も父から譲り受けた銀河水管弦楽団を捨てて、自分の好みどおりの牡丹峰楽団を新しく登場させた。9月の仁川(インチョン)アジア競技大会には北朝鮮選手団と共に応援団が来ると見られる。9年前の仁川アジア陸上選手権大会には当時学生だった李雪主が応援団として来た。今度はまた、どんな未来の楽団スターが隠れているのか注視しなければならないだろう。